

# 狭山に恐竜がやってきた!?

プテロダクティルス



ギガノサウルス



恐竜イラスト  
加藤愛一  
株式会社高橋書店  
『はじめてのずかん  
きょうりゅう』より

開館30周年記念特別企画

令和3年度 夏期企画展

## 恐竜展

— 歯から見る恐竜時代 —

6月26日(土)～9月5日(日)の期間、狭山市立博物館では開館30周年記念企画として、子どもたちから熱い要望のあった恐竜展を開催しています。トリケラトプスや、翼竜アンハンゲラの全身骨格標本の実物大レプリカ、絶滅動物の貴重な実物化石など49種114点を展示。

この企画展のテーマ、「歯から見る恐竜時代」とはいつたい…?? 入佐副館長にお話を伺いました。



SDGsの関連アイコンを特集ページに標記しています



「恐竜が狭山に来るまで」  
動画公開中!

恐竜展準備の裏側を、  
博物館公式YouTube  
チャンネルで公開し  
ています



イグアナドン



こんにちは! 副館長の入佐です。この企画展は「恐竜の歯から、恐竜時代がどんな時代だったのかを見てみよう!」というものです。今回はその一部をご紹介しますね。

恐竜がいた白亜紀(約1億4,500万年前～6,600万年前)という時代は、現在よりも平均気温が10～15℃ほど高く、海面は今より150～250mも高かったといわれています。

想像できますか? 狭山市内で一番標高が高い場所が入間基地付近で100mぐらいですから、この辺りは完全に水没していますね。

暖かくて過ごしやすい環境の中、動植物はどんどん大きくなっていきました。恐竜が大きな体を維持するためにはたくさんの栄養が必要ですが、それも問題なかったのですね。

草食恐竜の歯は、「デンタルバッテリー」という何本も歯が重なった構造をしていて、どれだけ植物を食べて、すり減ってしまっても大丈夫なようになっていきました。

肉食動物の歯は、獲物をかみ切って失血させる、かみ砕く、魚を突き刺すなど、捕食する獲物ごとに特化していきます。



デンタルバッテリーのレプリカ

展示では、これらに関連する恐竜の歯の構造を紹介しています。中には、恐竜が仲間同士で食い合ったと思われる化石も出土しています。

植物の進化に合わせて変化した草食恐竜と同様、肉食恐竜も餌とする生き物に合わせて歯だけではなく爪や容姿など、さまざまなタイプの生き物として変化していきます。

このように、今とは全く異なる環境の中、生物たちがさまざまな機能を獲得していったのが恐竜時代でした。

恐竜の大きくてかっこいいところだけを見るのではなく、恐竜が住んでいた世界はどうだったんだろう? と想像しながら、この企画展を見てみてくださいね。きっと、今までと違う発見があると思います。

トリケラトプス全身骨格標本  
(進化生物学研究所蔵)



期間中は、  
体験講座や  
特別講座も  
開催します

体験講座

化石レプリカをつくろう!

日時 7月31日(土)

① 10:00～11:30

② 14:00～15:30

申し込み方法は16ページをご覧ください

特別講座

トリケラトプスの脳を調べて  
わかったこと

日時 8月28日(土) 10:00～11:30

定員 40名

講師 福井県立大学恐竜学研究所准教授

河部 壮一郎氏

参加費 300円

申込み 8月17日(火)から同館へ(電話可)

工作教室

夏のまじまじ体験講座

8月11日(水)～19日(木)に開催

(16日を除く。予約不要)

アンキロサウルス



グロビデンス:  
貝やアンモナイトを砕くため  
キノコ状に発達した歯



スピノサウルス:  
魚を捕えるための鋭い歯